

謹んで新春のお慶びを申し上げます

新冠町長 小竹 國昭



町民の皆様、新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、心新たに輝かしい平成24年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、目ごるより町行政に対するあたたかいご支援とご協力に対し、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年のわが国を振り返りますと、3月11日に東北地方を襲った東日本大震災は、私たちの想像を絶する大きな被害を与え、改めて自然の力の恐ろしさを町民の皆様も心に刻まれたことと思います。

被災地においては、復旧、復興に向けた取り組みに加え、福島第一原発の放射能汚染問題は、いまだに先の見通しが立たない状態にあり、被災地住民や関係者の苦労は計り知れないものがあります。

このような中、7月に行なわれたFIFA女子ワールドカップにおいて、なでしこジャパンの初優勝は、日本中が明るい話題につつまれ、希望と感動を味わうことが出来、今、日本に一番必要な困難に立ち向かう勇気を与えてくれました。

当町においては、開町130年・町制施行50年という大きな節目を迎え、4月には管内初となる「認定こども園ド・レ・ミ」の開園。5月には1年を通してこの節目の年を祝う各種記念事業をスタートさせ、多くの町民の皆さんに参加や協力をいただいております。

一方まちの産業に目を転じますと、軽種馬の売れ行きは少しずつ回復傾向にはありますが、一頭当りの販売額が落ちており、漁業についても、総漁獲高に占める割合が大きい秋サケにおいては、漁獲高はよかつたものの、漁獲量は不漁だった昨年を大きく下回るなど、先行きに不安が残る状況が続いております。

しかし基幹作物であるピーマンの販売高が6年連続3億円を突破したほか、黒毛和種素牛・肥育牛の販売額が初めて5億円を突破するなど明るい話題もありました。

本年におきましては、長引く円高株価安等景気の先行きが懸念されますが、黒毛和牛の生産・経営の核となる施設「和牛センター」が4月から稼働するほか、「企業誘致事業」として推進しております「日高食肉センター」も、平成25年夏の操業に向け建設工事が着手されるなど、産業振興やまちの活性化と、当町に暮らす全ての人々がキラリと光輝くまちを目指し、全力で取り組んでまいりたいと考えておりますので、町民の皆様のご協力とご理解を賜りたいと思っております。

結びに、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げますとともに、新しい年が、みなさんにとりまして、最良の年となりますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。